

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

岐 阜 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	岐阜市立長良東小学校					フロンティアチャ-		早川 剛	
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	0	18	26
児童数	108	115	108	116	114	114	0	675	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じて「確かな学力」の向上を図る少人数指導

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・国語(3年生、4年生、5年生)
子どもの理解度や習熟度に差が出やすい教科、学年であるため
- ・算数(2年生、3年生、4年生、5年生、6年生)
子どもの理解度や習熟度に差が広がりやすい教科、学年であるため
- ・理科(6年生)
子どもの興味・関心や理解度に差が出やすい教科・学年であるため

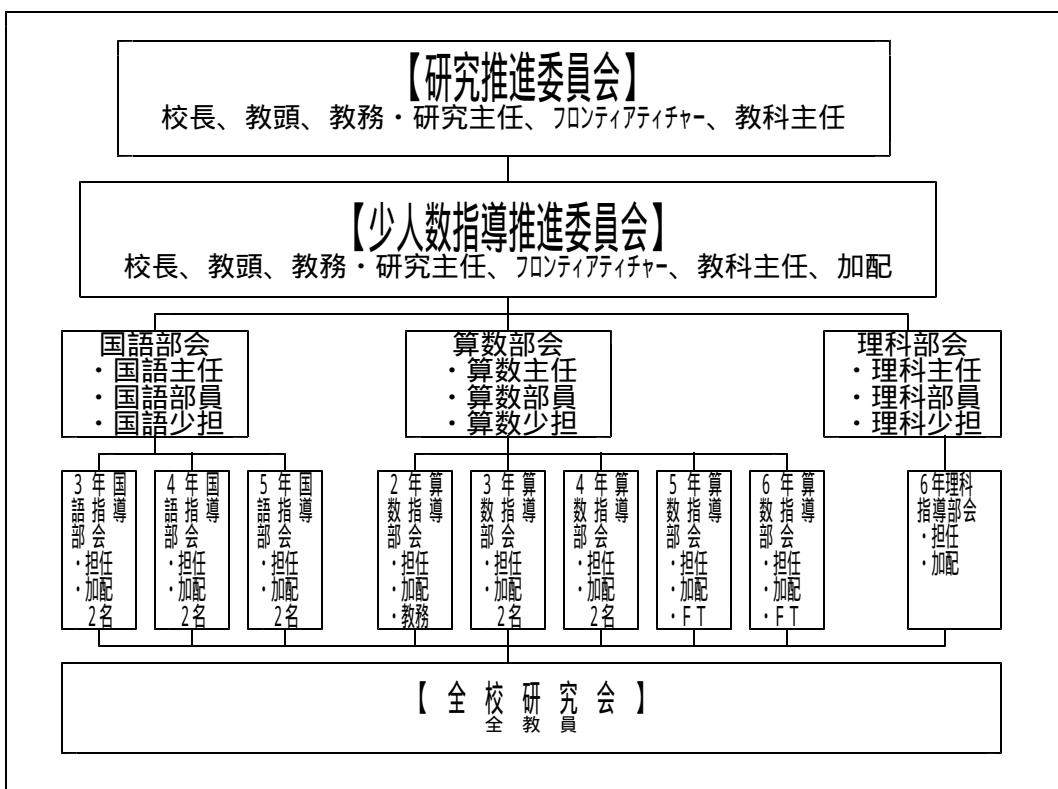
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫・改善 研究の見通し(仮説) 次のように少人数指導の指導体制を整えたり、指導方法を工夫・改善したりしていけば、個に応じて「確かな学力」の向上を図ることができる。</p> <p><指導体制> ・子どもの理解度や習熟度に差が出やすい教科、学年について、授業の計画や実践、評価やそれを生かした指導が効率よく行うことができる指導体制を全校で整える。</p> <p><指導方法> ・身に付けたい基礎・基本を明確にし、学習のねらいや子どもの実態に応じた柔軟な学習集団の編制の仕方や一人一人の実態に応じた指導方法を工夫・改善する。</p> <p>研究の内容・方法 ・教室の利用を含め、少人数指導のための時間割を作成し、教師や子どもの意識調査を定期的に行い、その都度改善をしていく。 ・実践や研究を進めるための体制を組織し、定期的に研究会等を開き、改善していく。 ・全校体制で「身に付けたい基礎・基本」「学習集団の編制の仕方」「評価規準」「補充的な学習や発展的な学習」を位置付けた少人数指導のための単元指導計画を作成し、教師の打ち合わせ等に利用しながら改善していく。 ・学習のねらいや子どもの実態に応じた柔軟な学習集団の編制を行い、子どもの実態からその有効性について検証していく。 ・学習プリントや教材、一人一人の実態に応じた指導方法等について実践し、子どもの実態からその有効性について検証していく。</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 個に応じたための指導体制の確立と教材開発 研究の見通し（仮説）</p> <p><指導体制> 学級集団での学習を生かしながら（基本は学級集団）、学習のねらいや児童の実態に応じて柔軟に学習集団を編制する。</p> <p><教材開発> 補充的な学習や発展的な学習のための教材を開発し、子ども一人一人が実態に応じてそれらに取り組むことができるようにすれば、より個に応じて「確かな学力」の向上を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度の成果と課題をもとに、指導体制や指導方法について、改善を図りながら実践する。 ・少人数指導の基礎となる学年共通の教科の学び方を明らかにし、その学び方を身に付けさせる指導を継続していく。 ・学習集団の編制にあたっては、自己選択を大切にするため、自己選択能力の育成を図る指導を大切にする。 ・身に付けたい基礎・基本や子どもの実態をもとに、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導のための教材を開発する。 ・開発した教材に取り組んだ子どもの実態から検証し、個に応じた指導に有効な教材について明らかにする。 ・開発した教材について教材集にまとめたり、単元指導計画に位置付けたりする。 <p>学習集団の編制については、学年を5つの学習集団に編制することを基本とする。学級集団で、一人一人の子どもが共通課題に取り組んでみて、その実態によって自己選択し、補充・基本・発展の3つのコースに分かれるようにする。自己選択の場面は、単元の導入時であれば、本時の前まで、また、単位時間の中で、より効果的な場に位置付ける。</p> <p>そのため、学年での指導体制の確立が不可欠であり、教科の本質に根ざした共通の学び方を一人一人の子どもに身に付けさせていくことが必要であると考え、研究仮説、研究内容・方法に追加した。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 子ども一人一人の学力を的確に評価し、それを生かした指導の在り方 研究の見通し（仮説）</p> <p>子ども一人一人の学力を的確に評価し、その子どもなりの考え方を生かしたり、つまづきを解消したりする指導を行えば、さらに個に応じて「確かな学力」の向上を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の課題と成果をもとに、指導体制、指導方法、教材の開発について改善を図りながら実践する。 ・評価規準をより子どもの姿が具体的なものにする。 ・評価規準をもとに一人一人の学力を的確に評価、累積、分析し、その結果を、個に応じた指導に生かす方法について実践し、より有効な方法を明らかにする。 ・個に応じて「確かな学力」を高める少人数指導の在り方について、「指導体制」「指導方法」「教材開発」「評価を生かした指導」の視点から明らかにし、少人数指導の単元指導計画や教材集にまとめる。
----------------	---

(3) 研究推進体制

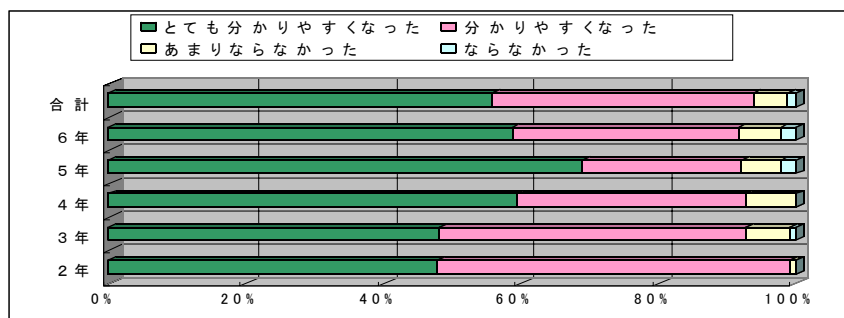


平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

成果

- ・学年共通の学び方が児童に定着した。4月から、3年生以上の学年で2教科にわたって少人数指導を実施してきたが、共通の学び方を明確にして指導することで、教師は教科の本質に基づいた指導を行うことができ、児童には、教科で願う学び方が身に付いてきている。
- ・学年の各教科ごとの指導部会にリーダーを位置付け組織することで、学年での指導体制が確立できた。また、リーダーが指導計画をもとに出す教科の本質に基づいた授業のポイントや教材を検討することにより、願う児童の姿を明確にし、的確な指導・援助を工夫して授業を行うことができた。このことは、教師間の打ち合わせの効率化につながっている。
- ・個に応じた教材の開発ができた。昨年度以来、指導計画を加筆、修正しながら、より児童の実態に応じた教材を準備することができた。
- ・少人数指導で、教科の学習が分かりやすくなったと感じている児童が93%いる。



< 12月の児童のアンケート結果 >

< 少人数指導がよいと感じている理由 >

- ・発表するなど、活躍の場が増え、主体的に授業に参加できるようになった。(51%)

- ・学習内容がよく分かるようになった。(93%)
- ・学習の仕方が分かり、自分で学習をできるようになってきた。(33%)
- ・その教科が好きになった。(28%)
本年度、特に、学習の仕方が分かるようになった、その教科が好きになった児童の割合が増加している。

- ・算数では、単元学習後、教科書の問題を評価問題として行い、定着度を確かめてみた。少人数指導をしている場合としていない場合の正確な比較はできないが、昨年と比べると、知識・技能面での定着度は向上している。

	2年	3年	4年	5年	6年
定着度	91%	92%	88%	93%	94%

2. 今後の課題

- ・評価規準を明確にして、評価の継続や児童の姿の交流を図っているが、学力の伸びを評価するのが難しい。一人一人の学力の伸びを的確にとらえ、それに応じた指導をしていくこと。
- ・補充的、発展的な教材について、さらに一人一人の児童の実態に応じたものを開発すること。
- ・加配教員が中心になって指導計画の原案を作成したり、手分けして教材を作成したりするよう努力しているが、なかなか授業についての打ち合わせの時間がもてない。打ち合わせをより効率よく行っていくこと。

学力等把握のための学校としての取組

- ・単元毎の定着度調査の実施(各単元終了後)
- ・定期的な学力調査の実施(年1回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究主題に基づいて下記のように授業公開や取組について説明を行った。

本校にて公開授業と説明

- 4月24日(木) 岐阜県教育長訪問
- 5月21日(水) 岐阜教育振興事務所及び岐阜市教育委員会訪問
- 5月23日(金) 長崎県島原市立第四小学校訪問
- 6月26日(木) 石川県江沼郡教頭会訪問
- 6月27日(金) 京都府福知山市教育委員会訪問
- 7月7日(月) 京都府高倉小学校訪問
- 9月17日(水) 文部科学大臣訪問
- 9月30日(火) 岐阜教育振興事務所訪問
- 10月21日(火) 揖斐郡池田町立池田中学校訪問(公開授業と説明)
- 2月3日(火) 群馬県伊勢佐木市校長会訪問
- 2月18日(水) 長崎市小ヶ倉小学校訪問
- 2月25日(水) 石川県松任市教育委員会

実践発表等

- 8月1日(金) 郡上教育研究所「少人数指導実践講座」
- 8月26日(火) 滋賀県教育センター「学校づくり支援講座」
- 10月25日(金) 刈谷市立日高小学校 国語科における少人数指導の在り方
学力向上フロンティアスクール公表会
- 11月8日(土) 自ら求めみがき合って高まる学習の創造
長良東小学校校内拡大研究発表会(研究授業、分科会)
- 12月1日(月) 校内全校研究会・岐阜大学教育学部岩田教授訪問
(研究授業、授業研究会)
- 1月26日(月) 学力向上フロンティアスクール公表会・指導法改善パイロットスクール協議会
- 2月10日(金) 瑞穂市立牛牧小学校
学力向上フロンティアスクール公表会(実践発表)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無